

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000788		
法人名	有限会社 アイケア小樽		
事業所名	グループホーム アイケアおたる		
所在地	北海道小樽市若松2丁目1-18		
自己評価作成日	平成24年2月14日	評価結果市町村受理日	平成24年4月23日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system:kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000788&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年12月1日より、訪問看護による 体調管理も加わり一層、入居者様の体調・安心・安全に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR南小樽駅に近い閑静な住宅街に立地し、利便性に恵まれた環境にある。室内は広くバリアフリーで利用者の安全と介護者の動線に配慮した造りとなっており、庭では菜園作りを楽しむことができる。運携法人は高齢者福祉関係の事業所を多数経営し、組織的に、運営、研修、記録物、人事、災害対策等で協力、連携することが期待できる。管理者はじめ職員は利用者一人ひとりのニーズに応え、「目配り、気配り、心配り」の理念に基づきサービスの質の向上に努めている。運営推進会議は地域代表、住民、民生委員、家族、利用者、職員が参加し定例に開催している。事業所運営、行事、災害対策について討議し、講師を招き勉強会を開催することもあり、サービスの質の向上に効果をあげている。家族には毎月個々の介護記録や季節毎の「便り」を送付して暮らしぶりを伝え、家族の信頼に繋げている。健康管理については月2回の提携医による往診と、週2回の訪問看護の利用で24時間いつでも医療機関と連絡とれる体制になっている。外国人ボランティアによる英語教室は、体操や歌もあり利用者に喜ばれているユニークな企画である。地域とは町内会行事に積極的に参加し、夏祭りは住民と共に楽しんでいる。多様な地域ボランティアの訪問があり、双方向での交流がみられ、地域との繋がりは深い。地域の中で親しまれ、期待されている事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員からの申し送り後、管理者が勤務者に理念を復唱してもらい、それに沿った支援に取り組めるよう努めています。	地域密着型の意義を踏まえて作成した理念を玄関に掲示している。理念は会議で話し合い、申し送り時に復唱する等して確認しサービスの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りには毎年参加させて頂き、年6回の資源回収・ゴミ拾い・草刈り等に参加しています。	町内会行事に参加し、夏祭り、草刈、資源回収に協力している。回覧板を利用して事業所行事を知らせ、子供神輿は事業所前に止まる等地域との繋がりは深い。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームに気軽に遊びに来て頂けるように、ホーム内での行事のご案内など回覧版などで呼びかけさせていただいています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者本人・ご家族・職員・町内役員・地域住民代表が参加し、2ヶ月に一度開催している。現状の取り組み内容の報告をし、ご意見・ご要望等を話し合い、サービスの向上に努めさせていただいています。	町内会役員、民生委員、家族、利用者が参加して定例に開催している。運営、行事、災害対策について討議し、意見は運営に反映させている。市職員の防災についての講演、歯科医の口腔ケアの勉強会を行い好評である。	運営推進会議は行政の協力があり、市職員が参加し講演した経緯があるが、地域包括支援センターの参加は現在のところ希望どおりではない。他の参加者の都合も考慮しながら、曜日、時間の調整を行い出席し易い環境を整え、参加を呼びかけることを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護課・介護保険課を中心に市担当者とは密に情報交換を行っている。また、市担当者の方には、運営推進会議にも参加していただき講演をしていただく等、連携してサービスと質の向上に取り組んでいる。	行政担当課とは常に連絡を密に取り情報交換を行っている。市担当課職員は随時事業所訪問しており、事業所は行政と共に連携してサービス向上に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム職員全体で介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいます。身体拘束に関するマニュアルを作成し身体拘束委員会を組織している。玄関はご家族の了解を得て、夜間のみ施錠しています。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、身体拘束防止委員会を組織して、職員の認識の共有をはかり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関は開放しており、安全に配慮しながら自由な雰囲気大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関しては、研修に参加し、その内容をフロア会議の場にて職員と共に意見交換し、勉強会を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体としての勉強は今現在行っていないですが、今後は外部研修などで参加可能なものは参加し、理解を深めていきたいと考えています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約及び利用解除に際しては、入居担当者や管理者より説明し、入居者様やご家族様の不安や疑問等は丁寧に対応させて頂き、納得されております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月介護記録をご家族に郵送し、利用者様の日頃の報告をしています。	内部、外部への苦情相談窓口を明記し、日頃の面談で家族の意見を聴取して、運営に反映させている。介護記録、「通信」を送付し、暮らしぶりを伝えている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて職員と話し合い運営に反映させています。	管理者はカンファレンス等で職員と話し合い、毎月訪問の法人本部マネージャーとの会議では職員の意見を聞く機会を設けている。職員の意見は運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ異動や、離職を抑えるよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講後、研修報告を行い職員全員に共有して実践へ役立ててもらっています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協議会の研修等に参加し意見交流を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様から日々不安と感じる事を言っていただき、安心していただける様に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用等まで、管理者・ケアマネが不安・要望に答え、安心していただける様努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時 管理者が内容を聞き、グループホーム及びサービス等の紹介をニーズに合った所を紹介しています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側という意識を持たず、日々共に生活をしている関係となり、共同生活を喜びとして実感して頂ける様努めています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子は、介護日誌を送付し、面会時には様々な報告をし、ホームとご家族様の関係を築いて行けるよう努めています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様にお話を聞き 可能な限り自宅に居た頃の様に支援しています。かかりつけの病院を利用し訪問理美容院など利用したりご家族様と相談し、短時間でも帰宅出来るように支援しています。	生活歴を把握し、大切な家族や友人の絆が途切れないように支援している。帰省や馴染みの美容室利用を支援し、訪問者には事業所内でゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員と入居者様と一緒に何かをする事で、生き生きと生活を送って頂ける様な環境作りをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体の状態変化等により、他の施設に移られた方を定期的に訪問し関係を断ち切らない様に努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の表情や行動等から思いや意向を察知し、把握するよう努めています。入居者様の自己決定を尊重し、その方の生活や希望に沿って支援しています。ご家族のご意向を伺い希望に添える様努めています。	表情や言動から本人の思いを把握し、家族や記録からも情報を得て、本人の意向に添えるよう支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や面会時にご本人のご家族に、ご本人が築いてこられた暮らし方や、習慣などを伺い少しでも馴染みの暮らしで生活して頂けるよう努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の表情や行動、体温・血圧・脈拍の測定などから状態を把握し、状態変化時は主治医に連絡し迅速な対応に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人との会話・表情・行動やカンファレンス、支援経過・介護日誌 毎朝の申し送り、ご家族 面会時のお話より意向を伺い、現状に即した介護計画作成に努めています。介護計画は3ヶ月ごと、状況に応じ見直しもしている。気になる事などは話し合い、ニーズにあった介護計画作成に心掛けています。	本人、家族の意向を取り入れ、医師、関係者の意見を参考にし、計画作成担当者を中心に職員で会議を行い検討している。定期的モニタリングの他、状況変化が生じた場合は、随時介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護日誌や支援経過などにサービスの内容と実施した事や状態を記録し、職員間で情報を共有出来る様、日々の関わり方や介護計画の見直しに活かしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣に昔ながらの市場や散歩が出来る場所があり、入居者様の希望により散歩がてら市場に買物に行く事が楽しみの一つになっています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の花屋さんが、月2回 季節の花を入居者様の前で花の名前を伝えながら生けて下さっています。又、町内会のお祭りで職員が御神輿をかついだり、ボランティアの方によるフラダンスを披露して頂いた後、お茶をご一緒するなどの交流も入居者様の楽しみになっています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に入居後もご家族やホームで対応し、馴染みの医療機関で安心して医療が受けられる様支援しています。	提携医の往診が月2回あり、訪問看護と合わせて健康管理を行なっている。24時間体制での連絡が可能であり、かかりつけ医との対応、連絡も行ない支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は在中していませんが、週2回訪問看護師による健康チェックを受けています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、早期に退院できるよう病院と相談し、ホームで出来る事をお話しています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に説明し、ホームで出来る事をお話しご理解を頂いています。重度化や終末期に向けた方針や同意書を作成しています。	本人、家族とは早い時期に終末期の方針について文書で確認している。状況変化時は家族、医師、看護師、職員と情報を共有し、連携を取りながら最善を尽くしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員全員が理解しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で年2回の避難訓練を行っています。夜間体制時の訓練も行っています。	消防署協力の下、夜間も想定し、地域住民の協力を得て、避難訓練を実施している。避難経路、非常用品の確認を行っている。スプリンクラーが設置されている。	避難訓練は、利用者の身体状況に対応できるよう配慮しながら、職員全員が訓練の経験ができるよう図らい、年2回実施し、一時避難場所の確保など、事前に検討することを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を重視し、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をするよう努めています。	職員は個々の人格を尊重し、言動に配慮して接遇している。個人記録の保管や面会簿の管理は、プライバシーを損ねることのないよう配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の時間を多くし、ご本人の希望を察しゆったりとした時間を過ごして頂けるようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に合わせた衣料品の購入や美容室に行ったりしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、後片付け等を利用者様と一緒にしています。お誕生日には利用者様の好きな物を提供しています。	献立は利用者の好みも取り入れ、盛り付け等を一緒に行なっている。静かに音楽を流し、職員と共に和やかに食事を楽しんでいる。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示にもとづいて各人の水分量を確保しています。栄養士が立てた献立によりバランスの良い食事を提供しています。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを行っています。入歯の方は洗浄を必ず行っています。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	データのチェックにより、計画的にトイレ誘導を行っています。	表情や動作、排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、それとなく誘導してトイレでの自立排泄に向けて支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と排泄の記録に基づいて予防に取り組んでいる。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しまれております。拒否時の対応は時間をあけての声掛け、他の介護員の対応を心がけています。	基本的には週3～4回の入浴、清拭が行なわれている。個々の希望やタイミングに合わせいつでも入浴できるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて医師の指示を受けながら対応しています。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状況に応じて薬の変更があるので、それに対応して支援している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	たまの利用者有志による外食などが楽しみとなっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望される場所へ、入居者様の可能な時に行えるよう心がけています。職員が付き添い、外食や買い物など出掛けられています。	日常的には散歩、買い物、菜園造りで戸外に出る機会はある。希望にそって近隣公園の桜見物や馴染みの市場への買い物、外食への外出を支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいはホームで預り、買物の時など希望される時に使用して頂いております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が書かれた葉書を郵送したり、ご希望の時に電話を使っていただいています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に配慮し、衛生面に注意して居心地良く過ごして頂ける様工夫しています。入居者様が自由に移動しやすい様テーブルを設置したり、音や光、臭いなど不快や混乱がないよう配慮しています。	居間を中心としてキッチン、トイレ、浴室が並び広い。居間からは中庭に出て日光浴や菜園造りを楽しむことができる。利用者の作品や金魚鉢を飾り、温度、湿度、換気、採光も良好で居心地が良い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にて、ご自由に過ごして頂けるよう工夫しております。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室には、ご家族様と相談し入居者様の使い易い物や好みの物を置き使用していただいています。寝具や食器などは、入居者様の使い慣れた物を使用して頂いています。	居室には使い慣れた机や椅子、ベットを持ち込み、仏壇や家族写真を飾り一人ひとりの個性を大切に快適に暮らせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で、可能な限りの着替えや口腔ケアをしていただき、自立した生活が送れるよう心がけています。		